

## 国際コース 1 年生が大学生の前で ESD プレゼン発表をしました

平成 27 年 6 月 24 日（水）、中部大学不言実行館 1 階アクティブホールにおいて第 6 回 ESD 発表会が行われました。国際コース 1 年生の代表 2 グループがそれぞれインドネシアのガスと学校について、インフラ整備の観点から問題点と改善策を探究し、大学教授、大学生、本校教員、本校生徒らが見守る中で英語でのプレゼンテーション発表を行いました。以下に発表内容の要約を掲載します。

### 「ガス」グループ

ガス輸出国として世界的にも上位に位置する傍ら、国内でのガス整備や知識不足が問題となっています。インドネシア国内では、プロパンガスの使用率が都市ガスの使用率を上回り、ガスを店へ買いに行ったりしています。また購入したガスボンベに穴などがあると、それをテープでふさぐといった危険な処置をしており、ガスに対する知識不足も問題になっています。そのため都市ガスの普及が急務となっています。まず根本的な解決策として、パイプラインを設置しなければならず、そのため多額の資金も必要となり、うまく普及が進んでいないのが現状です。しかし、都市部からではありますが、徐々に都市ガスの普及率も上がってきており、パイプラインの整備も進んできています。解決策としては、諸外国からの資金援助を受け、パイプラインを完備する事だと思えます。

### 「学校」グループ

インドネシアは日本と比べ、国土、人口とも非常に大きい国です。14 歳以下の子供の人口が非常に多く、「子供大国」ともいわれています。しかし、都市部と地方での教育格差があり非常に問題となっています。問題点として、教員の不足、公立学校の不足が挙げられます。公立学校設立のための資金が不足しているため、私立学校の数が公立学校の数を大きく上回っています。私立学校は公立学校と比べると授業料が高く、富裕層しか学校へ行けないのが現状です。まずは公立学校の数を増やし、地方でも公立学校へ通えるようにすることが大切です。もう一つは、教員数が足りていないということです。インドネシアでは、教員の給料が非常に安く、教員になりたがる若者は非常に少ないです。教員の育成を早急に行い、地位向上を政府が後押ししなければいけません。その間、海外から教員を雇うことも必要となってくると思えます。

以上の内容をすべて英語で発表し、自分たちの研究内容をしっかりとプレゼンを通して伝えることができました。質疑応答の場面では、大学教授から英語で「なぜインドネシアを選んだのか」という質問がされ、英語で答えることができず、日本語で回答しましたが、しっかりと質問の内容は聞き取れていました。これからは英語で質疑応答ができるようになることが必要であると感じたようで、本人たちも早くも次に向けての課題と目標を見据えていました。

